

評価調査結果要約表

1. 案件の概要

- 国名：ブラジル
- 案件名：老人病学
- 分野：医療
- 援助形態：第三国集団研修
- 所轄部署：中南米部南米課
- 協力金額総計：2749万円（4回実施分）（日本側負担1814万円）
- 研修員一人あたり金額：49万円
- 日本の支出比率：66%
- 協力期間（R/D）：2000年8月23日
2000年度から2004年度まで
- 先方関係機関：リオグ・ランデ・ド・スル カトリック大学（PUCRS）
- 日本側協力機関：
- 他の関連協力：「リオ・グランデ・ド・スル カトリック大学老人病学研究所」（1973年～1978年）

1-1 協力の背景と概要

リオグランデ・ド・スル カトリック大学（PUCRS）への技術協力は1973年度から1978年度に実施され、大きな成功を収めた。同プロジェクトの結果、老化現象及び老人病の研究と老年医学に関する基礎から最先端教育を提供できる高レベルの老年医学研究所が整備された。

この老年医学研究所を活用し、ラテンアメリカ諸国に訓練とそれによる専門的知識習得の機会を提供するために第三国集団研修「老人病学」コースが1993年から1998年に実施された。コース対象国における老人病専門医師不足に加え、言語、文化、経済レベルの類似性により、本コースには非常に多くの応募者があった。このため、各国の需要、期待に応えるべく2000年8月に更に5年間2000年から2004年までのコース実施のためのRecord of Discussion（R/D）が署名された。

1-2 協力内容

本研修コースは、ラテンアメリカ18か国及びポルトガル語圏アフリカ2か国のニーズに応じた老年医学分野の理論及び臨床に係る知識、技術の習得を目的とする。

研修割当国：アンゴラ、アルゼンチン、ボリビア、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、モザンビーク、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ヴェネズエラ

(1) 到達目標

1) 到達目標1

本研修コースにより、参加研修員が老人患者を治療するための老年医学の全体的及び体系的知識が向上する。

2) 到達目標2

参加研修員が老人病を予防する包括的な知識を取得し、活用する。

3) 到達目標3

参加研修員がブラジル及びラテンアメリカ諸国の老年医学に係る特質を学習し、ラテンアメリカ及びポルトガル語圏アフリカ諸国の老年医学の現在と将来の動向を研修参加者間の交流等を通じて理解する。

(2) 投入（評価時点2000-2003年の4回実施分）

日本側：

- 在外技術研修講師派遣 4名
 - ローカルコスト負担 1814万円
- 総額：1814万円

相手国側：

- ・ カウンターパート配置（コーディネーター） 講師6名
- ・ ローカルコスト負担 R\$213,434 現地通貨（925万円）

2. 評価調査団の概要

調査者：

JICAサンパウロ支所（現地委託コンサルタント：Weyler Galvao Porto M.D., MSc、コンサルタント、サンパウロ連邦大学（UNIFESP）老年医学神経科学室）。

調査期間：2003年11月1日～2003年12月26日

評価種類：在外事務所終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	応募者	26	49	33	49	参加者	14	14	14	14	参加国数	10	12	11	13	コース期間	1か月	1か月	1か月	1か月
--------	--------	--------	--------	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	------	----	----	----	----	-------	-----	-----	-----	-----

3-2 評価結果の要約

(1) 到達目標達成度

コース4回分の結果について、目標は達成されたと評価できる。特に強調できるのは、コース関係者及び参加者を結ぶ協力と交流チャンネルが本コースによって形成されたことである。

参加研修員アンケートでは、コース内容の理解について、よく理解できたが38.62%で非常に良く理解できたが44.01%となっており、合計82.63%が理解していると回答している。コースに対する当初の期待に対する満足度も、35.47%が満足した、34.32%が非常に満足したと回答し、合計69.79%が期待に応える内容だったと評価した。

コースの理解度について、アンケート結果に基づき0-10に指数化した結果は、8.68（標準偏差±0.67）点であり、参加研修員が老年医学について、知識及び技能を習得したことが確認できた。参加研修員らが最も興味を持った分野は、老化の予防医学であり、帰国後、数多くの研修員が老人のプライマリーヘルスケアの計画を実行させたと報告している。

100%の研修員が、各参加国における老人病の特性を知ることは、予防法や各種リソースの配分を計画する上で重要であったと答えている。また、PUCRS老年医学研究所を知ることも有益であったと回答している。更に、参加研修員の100%が変化し続ける老年医学の最新情報及び政治、経済、社会の動向に係るデータを恒常的に取得できる交流ネットワークを形成したと回答している。

(2) 妥当性

疫学及び人口統計上の大きな変化は、死亡率と出生率の減少を意味しており、老年人口増加の結果、老化に伴う病気が支配的となってきている。高齢化は世界的な現象であり、老年人口を多く有する上位11ヶ国の内、8か国は途上国となっている。65歳から75歳の老年人口にかかる医療コストは、若年人口の3倍となっている。国連の調査によると、ブラジルの高齢人口は、人口統計上の大きな変化にはまだ至っておらず、未だに流行する高齢人口における感染疾病が老年人口の死亡率低減を妨げている。この点でラテンアメリカ諸国及びポルトガル語圏アフリカ諸国はブラジルと類似した衛生面での問題を抱えており、老年医学の知識が予防・治療と限れたリソースの効率活用の面で高齢化傾向にある同地域に貢献できると言える。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

コース終了時アンケート、参加研修員及びPUCRSコースコーディネーターらが指摘した問題点及び改善点が次期コースに反映されて研修内容を向上させた。

(2) 実施プロセスに関すること

- 老年医学の専門家、PUCRSが実施している長期的なプロジェクト及び関連するPUCRSの施設を視察することにより、参加研修員は、老年医学及び予防医学についての全容を理解することができた。
- 実施機関、ブラジルの大学や研究機関及び日本人専門家とラテンアメリカ及びアフリカからの参加研修員間の情報交換を可能にした。
- 参加研修員は日常業務からはなれ、コースに集中することができた。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- 特になし。

(2) 実施プロセスに関すること

- 4回実施されたコースの参加研修員が帰国した後の、資金及び資機材、人材の配置と継続的に学習できる教材が不足している。

3-5 結論

本コースは、内容の妥当性について良く吟味されており、非常に良く計画された実施目的に適った内容となっており、参加者に適当なカリキュラムを提供している。

3-6 提言

(1) コース実施国、機関への提言

- 1) 元参加研修員を対象とした恒常的な再学習研修プログラムを設けること。
- 2) サポートスタッフ（看護師、精神科医、栄養士等）を対象に老人病学に関する第三国研修を設けること。

(2) JICAへの提言

- 1) 老年医学の予防及び治療に関する研修コースへの協力を継続すること。
- 2) 参加研修員を対象とした、機材や人材育成に関する協力をすること。
- 3) 本コースについて、現在の協力枠組みの更新を強く推奨する。本評価で確認できた本コースの到達目標達成度及び妥当性は非常に高く、本協力の継続を重要視すべきである。PUCRSと老年医学研究所は研究の先導的な地位にあり、国に科学の新フロンティアを根ざす目的で援助されるべきである。

3-7 教訓

参加研修員は、老年医学に係る習得した技術の適用に際して、政策上の支援、機材、技能スタッフの不足を挙げているが、今後も将来の状況の変化を把握する上で、参加研修員に関する調査、分析は継続されるべきである。特に、人材、機材共に著しく不足している一方で疫学及び人口統計上困難な状況に直面しているアフリカからは重要な教訓が今後得られると考えられる。

JICAは、PUCRSの講師陣を周辺国への協力手段として活用しているように、関係する各国のローカルな問題に対処すべく、他の国に、第三国集団研修を実施する条件が整えば、そこで、地域の問題に根ざした第三国集団研修を実施すべきである。